

## 「シンガポール国立大学分析アジア哲学プログラム参加報告書」

京都大学文学部 4回 石川凜

## 1. 学習成果

まず、私の今回の派遣の狙いが、Yale-NUSの学生たちの来日に先立つオリエンテーションの実施であったことを明記しておく。その上で、学習成果は以下の三点にまとめられる。

第一に、異文化の視点で自己の文化を顧みる機会を得たこと：「京都を紹介する」と漠然とした計画をたてたものの、日頃自己を取り巻く当たり前のものである京都の文化を、ありきたりでないやり方で紹介することは簡単ではなかった。この紹介の準備を通して、京都という土地とその文化の特別さとは何なのかを検討することで、自らも深く京都について理解することができた。

第二に、限られた時間で提供する情報を変更する柔軟さを鍛えられたこと：オリエンテーションは二日に渡るスケジュールで進行した。初日のオリエンテーションが終わった後に、Yale-NUSの学生たちから「公共交通機関の乗り降りについて教えてほしい」との要望が出たため、急遽翌日のオリエンテーションで使用する予定であったスライドを差し替え、新たな内容を加えた。限られた時間での発表内容の変更であったが、Yale-NUSの学生たちの疑問を解消し、十分な情報を与えることができたことに大いに満足している。

第三に、自己の文化を紹介する体験を通して、逆に異文化を理解する機会を得たこと：オリエンテーションは一方向的な講義形式になってしまわないよう、Yale-NUSの学生たちからも適宜質問を受け付けながら進めるようにした。その結果、学生たちから想定していなかったような質問をたくさんもらい、シンガポールと日本がいかに異なった文化背景を持つ国であるかを実感することができた。このような体験は、今後グローバルに活躍することが期待される我々にとってとても大切な学びとなった。

## 2. 海外での経験

Yale-NUSの教員や学生たちは多様なバックグラウンドの持ち主であり、Yale-NUSでの体験を単純に「シンガポールを体験した」と言うてしまうことはいささか乱暴である。しかし、Yale-NUSにそのような多様な人々が集まるのは、シンガポール政府の政策によるところも大きい。このような柔軟な移民政策などは日本とは大きく異なる面であり、それを肌で感じることは幸運であった。シンガポールは今後あらゆる分野で日本を追い越して行くであろうが、この体験を忘れずに、世界で戦える人材になりたいと強く感じた。

## 3. プログラム内容

上でも述べた通り、私の今回の派遣は、プログラム名こそ他の派遣生と同じであるが内容はやや異なる。Yale-NUSの学生たち向けのオリエンテーションが私の主要な活動内容であったが、同時にYale-NUS側および京都大学の派遣側の好意により、分析アジア哲学に関連したワークショップに参加する機会をいただいたことをここに記しておく。

## 4. 進路への影響

語学力を有するだけではなく、真の意味で異文化を理解し受け入れることができれば、まさに世界に通用するグローバルな人材になることができることを実感した。今後、学術もしくは実学の世界において国境を越えて活躍することを夢見ているため、その第一歩として得難い経験を積むことができた。